

# ほんばこ



No. **55**

日本教育会館 附設 教育図書館通信

復刊第 55 号 (通巻第 71 号)

2018 年 3 月 20 日発行

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

日本教育会館 5 F

教 育 図 書 館

Tel/Fax : 03 (3230) 4437

Mail : toshokan32304437@jec.or.jp

<http://www.jec.or.jp/tosho/>

## ● 目 次 ●

- ・「本はお好きですか」 薄田 綾子 2～3 p
- ・《 図 書 紹 介 》  
『漫画 君たちはどう生きるか』  
吉野源三郎 (著)、羽賀翔一 (イラスト)  
マガジンハウス (2017/8/24) 紹介 倉田 亨 4～5 p
- ・最近の受入図書 (2017 年 12 月～2018 年 3 月受入) 6～7 p
- ・教育図書館のご案内 8 p

## 本はお好きですか



薄 田 綾 子

やってみたいこと。温泉に行って、お風呂に入り湯上りにビールを飲んで本を読む。そのうちうとうとしてまた起きてお風呂に行って続きを読む。懂れているけれどできていないことの一つです。「読む本と飲み物とトイレがあれば」何時間でも過ごせるなあ（飲み物はビールでなくても可(笑)）。

私にとって読書は「自分の時間」「自分に戻れる時間」です。とても忙しい日、ちょっとした時間に本を開くと自分の中の時計がコツコツいつもの速さに戻る気がします。落ち込んだときや嫌なことがあったとき本を読んで一呼吸すると、自分について考えることができるように思います。さらに自己嫌悪になることもありますがつりあえずまたがんばろうという気になります。ご飯を食べるのも寝るのも惜しい、時間を奪われる喜びもあります。1年に1冊でもそんな本に出会えたらうれしいですね。

毎日同じものを食べてもいい。好きなものに偏ってしまう性格なので、あえて本は買わずに借りて読みます。せっかく図書館が同じ建物にあるのだからと、教育図書館で目に留まった本をランダムに読んでいます。

「貧困」「教育」「平和」「経済」「原発」「戦争」「政治」「憲法」複数の作家が同じようなテーマで書いていても、書かれた時期や立場で少しずつ違うこともあれば全く正反対のこともあります。読むことでいろんな考え方を知ることができます。ニュースや新聞で見たことを（仮想コイン、改憲、武器輸出、基地移転、復興、廃炉、SOG I、合区、etc.）改めて本で読むことで「なんとなく知っている」から「はあ、そういうことなのね」

と少しわかった気になることもあれば、よりわからなくなってもっと違う本を手にも取ることもあります。知っているつもりでいて認識が違っていた、上辺だけしか知らず深い現実の闇を教えてくれる本もあります。

『知らなかったぼくらの戦争』（アーサー・ピナード）『アベノミクスよろしく』（明石順平）『ハーバード日本史教室』（佐藤智恵）、図書館の新刊紹介を見て読むことが多いです。今貼ってあるものも読んでみたいのがたくさんあります。

「科学」や「数学」「物理」「宇宙」の本もあって、わからないながら読むとおもしろいです。『重力とは何か』（大栗博司）は2012年、『重力波で見える宇宙のはじまり』（ピエール・ビネトリュイ）は2017年、この5年の間に物理の世界では「だろう」と考えられていたことがわかってきて、“宇宙の果て”より先にすすめるかもしれない。ノーベル物理学賞はニュースで見たけれど、こういうことだったのね、と少し知った気になります。「物理が苦手な人でも大丈夫」と書いてありますがやっぱり難しいです。でも物理が苦手だった学生のころ読んだらもっと物理に興味がわいたかもしれないと思います。

『カラスの教科書』（松原始）『バッタを倒しにアフリカへ』（前野ウルド浩太郎）など、生活の中の不思議や著者がなぜそんなものに興味を持つのかな本もあって楽しいです。

読書はモノを外から多面的に見る練習になったり、自分の中に窓ができて外が見えるようになったりするように思います。読んだ本について他の人と話すことで考えを共有することもあれば、違った見方やとらえ方を知り、改めて別の視点から考えられることもあります。作文や感想文は、本の大筋をとらえたり作家の言いたいことを要約する練習だったのかも、と今は思います。つぎつ

ぎ読んでも身になっていないのが実感です。はあ、と感心するだけでなく内容を理解しよう、自分だったらどうだろうかと考えたり、読んだ内容を人にわかりやすく説明できるか、などの訓練として読書をとらえていけば知識や教養として蓄積されていくのでしょうか。けれど、なかなか……

小説も大好きです（好きなものに偏るので小説は時々をしています）。図書館だからこそ自分では選ばない本に出会えます。菅田哲也さんの超グロ、かと思うと『武士道シックスティーン』では泣いたり笑ったり。『BUTTER』に欲望を誘惑されて高カロリーのフレンチによろめきます。『蜜蜂と遠雷』からは音楽が色付きであふれてくるようです。実体験していないから想像できない、相手の立場になって考えられない、という方もおられますが、体験してはいけないこともあります。喜び、痛み、悲しみ、愛、憎しみ、景色、味、匂い、手触り、気配、恐怖、愉悦、絶望、快樂。本にはなんとゆたかな世界が広がっていることでしょう。

絵本も好きです。♪ぼくらのなまえはぐりとぐら♪げつようびリンゴを1つ食べました♪言葉のリズムが心地いい。色が美しい。ページをめくったとき「わっ」と驚く瞬間が楽しい（見開き真ん中に“ガブ”、とか）。絵本には教訓的なものもありますが大人になって読むとそうかな？と思うものもあります。アリとキリギリスのキリギリスは自分の子孫を残すために短い一生を精一杯生きている。そう思いませんか？楽しいばかりではなく悲しい物語もつらい物語もあります。何かが心に届く、残る。絵本にはそんな力もあると思います。子どもだけのものにしておくの、もったいないですもん。

図書館にも本屋さんにもネットにもたくさんの本があって、自分が一生に読める本はそのうちのどのくらいだろうかと考えます。いずれ目が見えにくくなって（要するに老眼になって）そのうち

本を読むのが億劫になってしまうのかしらとも思っています。とりあえず今は温泉でのんびりとはいかなくても、選び放題本があって読みたい本があつて読めるのは幸せだなあと思っています。さあ今日は何を借りていこうかな。

（日本教職員組合 中央執行委員）

### ご紹介の本

『知らなかったぼくらの戦争』アーサー・ビナード著 小学館 2017.4



『アベノミクスによろしく』明石順平著 集英社  
インターナショナル 2017.10

『ハーバード日本史教室』佐藤智恵著  
中央公論新社 2017.10



『重力波で見る宇宙のはじまり』  
ピエール・ビネトリユイ著 講談社 2017.8

『カラスの教科書』松原始著 講談社  
2016.3



『バツタを倒しにアフリカへ』前野ウルド浩太郎著 光文社 2017.5

『BUTTER』柚木麻子著 新潮社 2017.4

『武士道シックスティーン』菅田哲也著 文藝春秋 2010.2

『蜜蜂と遠雷』恩田陸著 幻冬舎  
2016.9



### 教育図書館について

教育図書館は1966年10月1日、(財)日本教育会館の附設図書館として設立されました。教育関係図書を中心に、日本教職員組合結成以来の刊行物、全国教研集会報告書などのほか、教育文化総合研究所（前身は国民教育研究所）の研究成果、教育学一般、教育実践記録などを重点的に収集、閲覧に供しています。また、一般の方も利用できるよう幅広く話題の図書も受入れています。

リクエストをお待ちしています。

## 《 図 書 紹 介 》

### 『漫画 君たちはどう生きるか』



吉野源三郎（著）、羽賀翔一（イラスト）

マガジンハウス（2017/8/24）

この著書が出版されたのは1937年。その当時を想像するとどんな時代であろうか、考えを巡らせてみる。日本は国際連盟を脱退して国際社会から孤立し、2・26事件を機に軍部の政治的発言力が増大し、国全体が戦争突入体制になっていた。そして、1937年に盧溝橋事件に端を発し、長く続く日中戦争に突入していった。まさに個よりも国家が優先され、若者は戦場へと駆り立てられ、お国のためにと滅私奉公の時代。そんな時代と今を比べてみるとどうであろうか。太平洋戦争の敗戦後、日本国憲法のもと、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の三原則がずっと守られてきたのだが…。現状は、安倍一強政治が続く中で、特定秘密保護法によって国民の知る権利を制限し、憲法違反であると指摘されていたにも関わらず、集団的自衛権の行使が可能となる安全保障関連法（戦争法）を成立させ、さらには現代の治安維持法といわれている、いわゆる共謀罪法も強行採決で成立させてしまった。為政者は“間違いを犯す”という概念のもとに、憲法はある。憲法は為政者を縛るためのものであり、これが立憲主義である。それを踏みにじり、憲法違反を平然とやり遂げてしまう。このような状況は戦争へと邁進していった時代と同質なのではないか。それゆえに、この著

書「君たちはどう生きるのか」が再び読まれ、意味深く、読者に伝わってくるのではないだろうか。

主人公は、コペル君（コペルニクスにちなんで）という15歳の少年である。自分の見た情景や学校の友人たちの行動をきっかけにして、考えを深めていき、それをコペル君の叔父が示唆していく。はじめにコペル君は、天動説から地動説を唱えた話を引き合いに出し、自己中心的な世の中の見方から、世の中の流れの中の一人が自分であるという見方の転換をはかる。子どもの頃は天動説的な考えをもっていて、それが大人になるにつれて地動説的な考えに変わっていくということであるが、それは完全ではなく、大人になった後でも、自分を中心に世の中を見ることはあることも示している。そして、自己中心的な考えを捨てなくては、この世の真理を知ることはできないとしている。当時の状況はまさに日本を中心として考え、そして他国との協調や連携などははかられず、自国の繁栄のみを強調して戦争に邁進していったのではないか。国家総動員体制をとれるよう権力を一極集中させ、また監視できる体制もなく、国家が誤った方向に進んでいくのを止める手立てがない状況に追い込まれていった。それでは、現在の状況はどうであろうか。安倍一強政治のために、国会において、到底納得できない閣僚の答弁を繰り返しても、審議時間だけ経れば、憲法違反と指摘されている法案も強行採決で通してしまう。まさに三権分立の一翼を担う国会を軽視して、権力を内閣に一極集中していると言わざるを得ない状況である。つまり、安倍内閣が中心にまわっており、いびつでありバランスを欠いている。その当時と現在を比べてみても、危惧すべきことが同じといえるのではないだろうか。つまり、世の中の構成員の一人としてとられる「地動説的考え方」は、戦後からかなりの間、この考え方を生かし大切にしてきたのかもしれないが、その当時と今は、蔑ろにされているのであろう。

またコペル君は、人間は分子のようだと考えた。それによって、世の中に大きな流れを作っているのだが、必ずしも良いことばかりでないことに気づく。ひとつの大きなかたまりになって肩を寄せ合っているせいで、かえって抜け出せなくなる時もあるのではないか。間違った方向に進んでいるとは思うけど、個ではなかなか声を出せずに、集団にいることであやふやにされてしまい同調してしまう。このような状況は今でもよくあることではないだろうか。空気を読むとか忖度するとか。当然であるが、集団の意見が必ずしも正しいとはかぎらない。個の意見が取り上げられない、尊重されない状況は、戦争へと突き進んでいったその当時と、国民から選ばれた議員が論戦を交わし、審議をする国会を軽視している現在とでは、同質であるといえるのではないだろうか。

コペル君の出したこの2つの考え方は、国家のあり方についてとても重要な視点となっている。あらためて、今のバランスを欠いた状況を、わたしたち国民が真剣に考え正していかななくては、過去に経験した悲惨な時代へと再び陥ってしまうのではないだろうか。

コペル君の叔父は最後に、「僕たち人間は、自分で自分を決定する力をもっている。だから、誤りから立ち直ることもできるのだ」と記している。私たちは、戦後、平和の礎を築き上げてきた。このことは、悲惨な戦争を二度と繰り返さないことを心に刻み、まさに「決定」してきたのだ。その強い意志をもち、子や孫の次世代にも、平和を引き継いでいくという「決定」を、あらためて確認しあわなければならないのではないだろうか。

(日本教職員組合 中央執行委員 倉田亨)

## ～ 主要農作物種子法 ～

昨年2017年4月14日の第193回国会において主要農作物種子法を廃止する法律が賛成多数（民進党・新緑風会（賛成票0 反対票50）で廃止案が可決され、2018年3月に「主要農作物種子法」が廃止になります。

主要農作物種子法は、昭和27年に、戦後の食糧増産という国家的要請を背景に、国・都道府県が主導して、優良な種子の生産・普及を進める必要があるとの観点から制定されたのですが、  
①種子の品質は安定 ②多様なニーズに対応するため、民間ノウハウも活用して、品種開発を強力に進めるため ③民間企業との連携により種子を開発・供給することが必要と民間の連携を理由にしています。この問題を考えるきっかけになる本のご紹介をします。

### 『種子法廃止でどうなる？』

農文協 編・出版 2017.12

以下の点から、書かれています。

- I 歴史からみる種子と品種
- II 種子法廃止でどうなる？
- IV 私たちがいまからできること

### 『タネが危ない』野口勲（著）

日本経済新聞出版社 2011.9

わたしたちは「子孫を残せない野菜」を食べている。そして、現代に流通しているF1という一代限りの種子。「人間は本来やるべきでないことを、やっているのではないだろうか？」

### 『モンサント ― 世界の農業を支配する遺伝子組み換え企業』マリー＝モニク・ロバン（著）ほか 作品社 2015.1

遺伝子組み換え種子によって世界の農業への支配を進めるモンサント社。政治家と癒着、科学者に圧力をかけ、農家には訴訟で恫喝。その影響は？



## 最近の受入図書

(2017年12月～2018年3月受入)

### 【日教組刊行物】

『第7回 TOMO-KEN 青年教育実践交流集会』日本教職員組合編、発行 2015.3

『第8回 TOMO-KEN 青年教育実践交流集会』日本教職員組合編、発行 2016.3

『第9回 TOMO-KEN 青年教育実践交流集会』日本教職員組合編、発行 2017.3

『定時制・通信制全国集会要項』2015-16年度  
日本教職員組合高校教育部編

『実習教員全国集会要項・報告書』2015年度版  
日本教職員組合実習教員部編

### 【各県教組刊行物】

『学校での働き方改革を通して教職員と子どものゆたかな教育環境づくりを』岩手県教職員組合編・発行

『20年後の岩手をつくるカリキュラム』岩手県教職員組合編・発行

『岩手県教職員組合70年の歩み』岩手県教職員組合編・発行

\* ご寄贈ありがとうございました。

**各県教組の70年史がありましたら、  
お送りください**

### 【教育総研刊行物】

『季刊フォーラム教育と文化』89号（2017 Autumn）教育文化総合研究所編 榊アドバンテージサーバー 2017.11

『季刊フォーラム教育と文化』90号（2018 Winter）教育文化総合研究所編 榊アドバンテージサーバー 2018.1

『教職員の自己規制と多忙化研究委員会報告書』教育文化総合研究所編・発行 2017.6

『貧困と子ども・学力研究委員会報告書』教育文

化総合研究所編、発行 2017.6

### 【文部科学省刊行物】

『学校基本調査報告書』平成29年度 文部科学省 著 日経印刷 2017.12

『地方教育費調査報告書』平成28年度 文部科学省編 株式会社ブルーホップ 2018.1

### 【平和資料】

『忘れまい沼津大空襲』第1～3集 沼津大空襲を綴る会編・発行 1980

『岡山の平和教育』第29号～第35号 岡山県教職員組合教育運動推進センター平和教育研究部会編 2011～2017

\* ご寄贈ありがとうございました。

### 【教育研究全国集会報告書】

『日教組教育研究全国集会報告書』第67次 第1～第24分科会 日本教職員組合編

### 【和雑誌】

『教育委員会月報』平成29年11月号～平成30年3月号 第一法規

### 【防災・減災】

『東日本大震災からの地域経済復興への提言』東北大学大学院経済学研究科地域産業復興調査研究プロジェクト編 河北新報出版センター 2012.3

### 【社会・教育】

『授業の見方』澤井陽介著 東洋館出版社 2017.1

『史上最悪の英語政策』阿部公彦著 ひつじ書房 2017.12

『英語教育の危機』鳥飼玖美子著 筑摩書房 2018.1

『「迷惑施設」？としての学校』小野田正利著

- 時事通信社 2017.6
- 『共生社会の時代の特別支援教育』第1～3巻  
 柘植雅義編集代表 大石幸二、鎌塚優子、滝川  
 国芳編著 ぎょうせい 2017.12
- 『対話する社会へ』暉峻淑子著 岩波書店  
 2017.1
- 『人生に消しゴムを使わない生き方』岩本麻奈著  
 日本経済新聞出版社 2017.6
- 『依存症からの脱出』信濃毎日新聞取材班著 海  
 鳴社 2018.2
- 『やめられない』帚木蓬生著 集英社 2015.1
- 『非正規クライシス』北川慧一、古賀大己、澤路  
 毅彦著 朝日新聞出版 2017.11
- 『母・娘・祖母が共存するために』信田さよ子著  
 朝日新聞出版 2017.12
- 『日本軍兵士』吉田裕著 中央公論新社 2017.12
- 『英語のセンスを磨く』行方昭夫著 岩波書店  
 2018.1
- 『いまさら聞けない ビットコインとブロック  
 チェーン』大塚雄介著 ディスカヴァー・トゥ  
 エンティワン 2017.3
- 『スマホゲーム依存症』樋口進著 内外出版社  
 2018.1
- 『わたしを生きる知恵』河野貴代美著 岡野八代  
 対談 三一書房 2018.1
- 『心と体を蝕む「ネット依存」から子どもたちを  
 どう守るのか』樋口進監修 ミネルヴァ書房  
 2017.11
- 『論考 図書館とレファレンスサービス』齋藤泰  
 則著 樹村房 2017.12
- 『専門図書館の役割としごと』青柳英治、長谷川  
 昭子編著 勁草書房 2017.8
- 『「招待所」という名の収容所』ロバート・S・  
 ボイントン著 柏書房 2017.9
- 『これからのインクルーシブ体育・スポーツ』  
 藤田紀昭・齋藤まゆみ編著 ぎょうせい  
 2017.12
- 『学びの哲学』嶋野道弘著 東洋館出版 2018.1
- 『教師の「専門家共同体」の形成と展開』鈴木悠  
 太著 勁草書房 2018.2
- 『ブラックボックス』伊藤詩織著 文藝春秋  
 2017.1
- 『文字に美はありや』伊集院静著 文藝春秋  
 2018.1
- 『児童虐待から考える』杉山春著 朝日新聞出版  
 2017.12
- 『マナーという名の犬』ボード・シェーファー著  
 田中順子訳 村上世彰監修 飛鳥新社  
 2017.11
- 『インバウンドの罨』姫田小夏著 時事通信出版  
 局 2017.8
- 【家庭・芸術・趣味・文学一般 ほか】
- 『銀河鉄道の父』門井慶喜著 講談社 2017.12
- 『おもかげ』浅田次郎著 毎日新聞出版  
 2017.11
- 『ふたご』藤崎彩織著 文藝春秋 2017.1
- 『火定』澤田瞳子著 PHP研究所 2017.11
- 『九十歳。何がめでたい』佐藤愛子著 小学館  
 2016.8
- 『記者襲撃』樋田毅著 岩波書店 2018.2
- 『維新の影』姜尚中著 集英社 2018.1
- 『おらおらでひとりいぐも』若竹千佐子著 河出  
 書房新社 2018.1
- 『西郷どん』上・中・下 林真理子著 KADO  
 KAWA 2017.11
- 『屍人荘の殺人』今村昌弘著 東京創元社  
 2017.1

#### 編集後記

ご協力、ご寄贈いただいた皆様に心からお礼申し上げます。図書館の仕事で感じることは、忙しい中でも幅広くつながって、情報を共有することの必要性です。図書館でさまざまな情報についてのお手伝いに心がけていきたいです。（川内）

